

平成27年2月10日

公益財団法人 日本野球連盟 御中
公益財団法人 日本学生野球協会 御中
公益財団法人 全日本大学野球連盟 御中
公益財団法人 日本高等学校野球連盟 御中
公益財団法人 全日本軟式野球連盟 御中

一般財団法人 全日本野球協会
アマチュア野球規則委員会

2015年度公認 野球規則の改正等について

掲題につき下記のとおり通知しますのでご指導ご徹底のほどよろしくお願い申し上げます。

記

1. 2015年度公認 野球規則の改正について

別紙のとおり 7項目について規則の改正が行われました。

なお、今回の改正で、規則8.02(b) [原注]に次が追加になりましたが、我が国では[注]を加えて対応することとしました。

8.02(b) [原注] 投手は、いずれの手、指または手首に何もつけてはならない(たとえば、ばんそうこう、テープ、瞬間接着剤、プレスレットなど)。審判員は、異物と判断しなかった場合でも、手、指または手首に何かをつけて投球することを許してはならない。

[注] 我が国では、本項[原注]については、所属する団体の規定に従う。

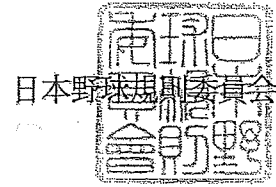
2. 規則適用上の解釈について

今年度より監督またはコーチが投手のもと(マウンド)へ行く回数のカウントの仕方について、従来曖昧であった点につき、別紙のとおり明文化しました。

以上

2015年1月27日

2015年度 野球規則改正



(1) 1. 17【注3】を次のように改める。

《1》①の3段目として次を追加する。

なお、これらの表示については、レーザー照射による文字入りを認める。

《2》③の1・2段目を次のように改める。(下線部を改正)

ミットまたはグラブに表示する商標は、布片、刺繍または野球規則委員会の承認を受けた樹脂製の成型物によるものとし、これを表示する個所は背帯あるいは背帯に近い部分、または親指のつけ根の部分のうちのいずれか1カ所に限定し、その大きさは縦4センチ以下、横7センチ以下でなければならない。

マーク類を布片、刺繍または樹脂製の成型物によって表示する場合（エナメル素材のように光る素材での表示は認められない）は、親指のつけ根に近い個所に限定し、その大きさは、縦3.5センチ、横3.5センチ以下でなければならない。

(2) 3. 06【原注】の冒頭に次を加え、同【注】を追加する。

ダブルスウィッチ（投手交代と同時に野手も交代させて、打撃順を入れ替える）の場合、監督はファウルラインを越える前に、まず球審に複数の交代と入れ替わる打撃順を通告しなければならない。監督またはコーチがファウルラインを越えたら、それ以後ダブルスウィッチはできない。

【注】 我が国では、本項【原注】前段については、所属する団体の規定に従う。

(3) 4. 05【原注】の末尾に次を追加する。

ベースコーチは、用具の交換を除き、走者の身体に触れてはならない。

(4) 6. 10 (b) (10)を次のように改める。(下線部を改正)

投手が指名打者に代わって打撃するかまたは走者になった場合、それ以後指名打者の役割は消滅する。試合に出場している投手は、指名打者に代わってだけ打撃または走者になることができる。

(5) 8. 02 (b)【原注】および同【注】を追加する。

【原注】 投手は、いずれの手、指または手首に何もつけてはならない（たとえば救急ばんそうこう、テープ、瞬間接着剤、プレスレットなど）。審判員が異物と判断するかしないか、いずれの場合も、手、指または手首に何かをつけて投球することを許してはならない。

【注】 我が国では、本項【原注】については、所属する団体の規定に従う。

(6) 8. 05 (d)【原注】を追加する。

【原注】 投手が走者のいない塁へ送球したり、送球するまねをした場合、審判員は、それが必要なプレイかどうかを、走者がその塁に進もうとしたか、あるいはその意図が見られたかで判断する。

(7) 9. 02 (c)【原注2】の3段目として、次を追加する。

監督または捕手からの要請は、投手が打者へ次の1球を投じるまで、または、たとえ投球しなくてもその前にプレイをしたりプレイを企てるまでに行なわなければならない。インニングの表または裏が終わったときの要請は、守備側チームのすべての内野手がフェア地域を去るまでに行なわなければならない。

以 上

2015年度 規則適用上の解釈

1. 「悪送球が野手の手を離れたときの走者の位置」とは(7. 05g 関連)

1アウト走者一・二塁、二塁走者がけん制で二・三塁間でランダウンプレイになった。その間、一塁走者は二塁に達していた。その後、ランダウンプレイにおいて二塁手が三塁へ悪送球してボールデッドの箇所に入ってしまった。悪送球が野手の手から離れたとき、二・三塁間には二人の走者がいた。さて、二塁に達していた一塁走者はどこまで進めるか。

わが国では1980年のプロ・アマ規則委員会で、「走者の位置」とは文字通り「各走者がその時に位置していたところ」との解釈をとっている。したがって、一塁走者には二塁から2個の塁、すなわち本塁までの進塁を認める。

2. 「対象走者以外に対するけんせい球」について(8. 05d・h 関連)

1アウト走者二・三塁、野手は前進守備、投手は投手板上から三塁にけん制球を投げた。三塁手は、一歩前に出てその送球を捕って素早く二塁に送球し、二塁走者をアウトにした。三塁手に三塁走者をアウトにしようとする行為も見られず、ましてや、三塁手も一歩前に出たということは、アマ内規⑫に抵触するので「ボーク」が宣告される。このようなトリックプレイは、アンフェアなプレイで許してはならない。

3. 「投球当時の解釈」について(7. 05g)

これまでのオン・ザ・ラバーの解釈を、アマ側もMLBの解釈に変更する。「ただし、1年間の周知期間を設けて、新解釈の適用は2016年からとする。(プロ野球はMLBの解釈を従来からとっている)

現行解釈 競技者必携2014年 規則適用上の解釈

(9) 投手の投球当時とは、投手が軸足を投手板上に位置したときである。(オン・ザ・ラバー)

解釈変更 (案)

MLB審判マニュアル 規則7. 05(g) : 投球当時

投球当時とは、投手が打者への投球動作を起こしたときをいう。

- ・windアップポジションでは、投手が打者に向かって投球に関連した自然の動作を始めたとき(すなわちwindアップまたは投球動作の始まり)をいう。
- ・セットポジションでは、投手が身体の前面で両手を合わせてセットに入った後、投手が打者に向かって投球に関連した自然の動作を始めたときをいう。

投手がプレートに触れている間に進塁した走者は、投手が実際に投球モーションを開始したときに踏んでいた塁を占有していたものとみなす。投球モーションは投手が打者に対し投球を始める動作をいう。投手が投球動作を起こしていない場合、走者の進塁は可能で、投手が実際に打者への投球を開始したときに触れていた塁を占有していたとみなす。投球に移る前の動作、いわゆる“ストレッチ”は投球動作の開始とはみなさない。

以上

平成27年2月10日

公益財団法人 日本野球連盟 御中
公益財団法人 日本学生野球協会 御中
公益財団法人 全日本大学野球連盟 御中
公益財団法人 日本高等学校野球連盟 御中
公益財団法人 全日本軟式野球連盟 御中

一般財団法人 全日本野球協会
アマチュア野球規則委員会

監督またはコーチが投手のもと（マウンド）へ行く制限について
（規則8.06）

監督またはコーチが投手のもと（マウンド）へ行く回数のカウントの仕方について、今年度よりMLBおよび国際大会の基準に合わせ以下の通りとしますので、周知徹底の程よりしくお願い申し上げます。

記

1. 監督またはコーチがファウルラインを越えて投手のもと（マウンド）へ行った場合は必ず1回に数える。（ただし投手交代の場合を除く）
2. イニングの途中で監督またはコーチが投手のもとへ行き投手交代をする場合：
新しい投手がマウンドに到着し、その投手がウォームアップ（準備投球）を始めたならば、その監督またはコーチはベンチに戻らねばならない。もし、そのままとどまっていた場合には1回と数える。
3. 新しいイニングの初めに、監督またはコーチがマウンドに行った場合：1回に数える。
4. 球審（審判員）は、監督またはコーチに投手のもと（マウンド）へ行った回数を知らせる。

以上